

ふるさと あまるめ  
神々の故郷・余目荘と平野の歴史

0. 平野地区の住所が長いことについて

私（守谷）の住所：福島市岡部字東町35-6

岡部は大字＝江戸時代の村の名称

東屋沼神社の住所：福島県福島市飯坂町平野字明神脇1

平野は大字？違います。江戸時代の村の名称でもありません。

では、東屋沼神社は江戸時代に何村にあったのでしょうか？

東屋沼神社が所在した江戸時代の村は入江野村です。

1. 平野地区の成り立ち

(1) 飯坂町の町村合併：昭和39年1月福島市に合併

上飯坂村		M22	飯坂町				S 30 年 3 月 3 1 日	飯坂町		
中野村										
上入江野村	M4	入江野村	M22	平野村						
下入江野村										
佐場野村	M9	井佐野村								
井野目村										
平田村	M9	平塚村								
飯塚村										
湯野村	M9	湯野村	M22	湯野村	M34	湯野村			S15	湯野町
四箇村										
北原村										
湯野村下組	M9	東湯野村	M22	湯野村	M34	東湯野村				
増田村										
塩ノ目村										
板谷内村										
茂庭村										

旧飯坂町には、江戸時代の村は

信夫郡の7か村：上飯坂村・中野村・入江野村・佐場野村・井野目村・平田村・飯塚村

伊達郡の7か村：湯野村・四箇村・北原村・増田村・塩ノ目村・板谷内村・茂庭村

※上・下入江野村、湯野村と湯野村下組は各1か村として数えた。

(2)江戸時代の村の範囲はわかるのか？

『地名辞典』（角川出版社）

平塚村  
コハラダ 小原田 ウチコハラダ 内小原田 コシマキ 腰巻 ソウカワハラ 早川原 エアイ 江合 ソトコハラ 外小原  
ダ 田 ムジ 無地名 ヒ 日照 サンマイオサ 三枚長 オウギダ 扇田 ミナミドウノマエ 南堂前 ハツシヨウマキ 八升蒔 マエハタ 前畑  
ソトハア 外畑 テンノウシタ 天王下 キタテンノウシタ 北天王下 ミズシタ 水下 ミナミ 南 ワカサゴヤ 若狭小屋 ナカ 中ノ町 トト 戸々  
ハラ 原 ソツタテ 糙立 タナカマエ 田中前 ムカイダ 向田 カミヨシハラ 上吉原 カミヤシダ 上谷地田 テンシヤ 天車 ナカアラダ 中荒田  
マエハラ 前原 ヒラ 平田 ヨシハラ 吉原 ジソウデン 地藏田 ダン 壇ノ前 マエ 壇ノ越 ダン 壇ノ脇 ワキ 伊勢保  
ウチ 内 オオダテ 大館 ハツケイ 八景 シモハクサン 下白山 ナゴウマエ 名郷前 イシヅカ 石塚 ナカ 中ノ内 ウチ 春日前 カスガマエ  
ヒガシソツカク 東六角 キタ 北 ゲンドウ 原堂 ク 久根角 ク 久根際 ク 六角 ウワダイ 上台 サクラダ 桜田 ミ 三  
スミダ 角田 ダイ 代 タグリ 田切 ゴトマキ 五斗蒔 ヤチダ 谷地田 ハチリユウマエ 八竜前 カミ 上ノ前田 マエダ 小三  
ロウウチ 郎内 ク 久根畑 ハラ 原

※明治9年に合併してできた平塚村内の小字が平田村か飯塚村かはわからない。

(3)平田村内の社寺はどの村に

- ①星宮神社：平田村
- ②香積寺：平田村
- ③医王寺：佐場野村
- ④金剛院：入江野村

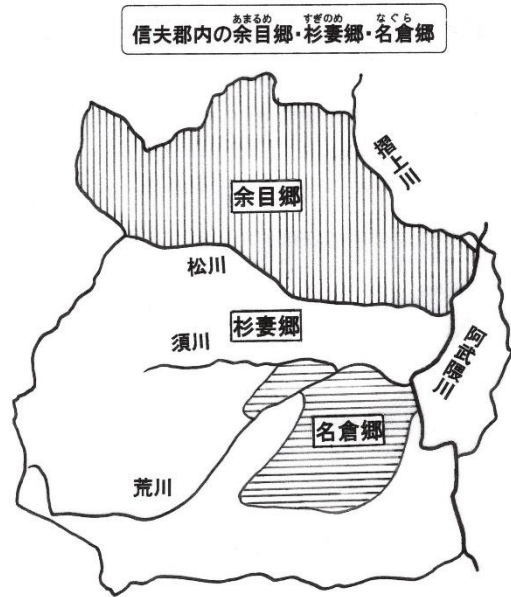
(4) すぎのめ 杉妻荘と あまらめ 余目荘と名倉荘

荘は郷ともいう。

杉妻郷・余目郷・名倉郷

「信達一統志」

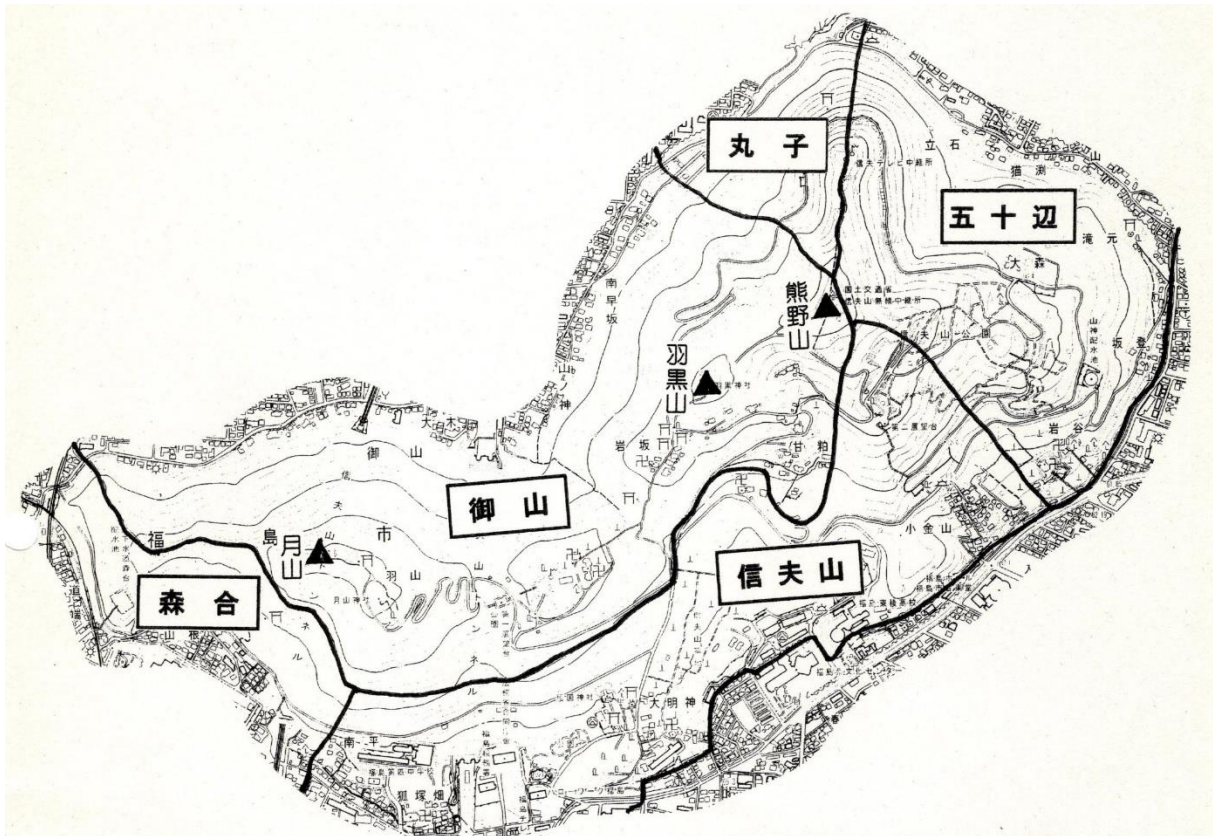
- ①杉妻荘：松川・須川の際十五邨これを杉妻郷と云。  
 福島・腰浜・五十辺・小山荒井・曾根田・御山・森合・泉・南沢又・八島田・笹木野・上野寺・下野寺・庭坂・李平
- ②須川より南杉妻郷二十六郷  
 桜本・土船・二子塚など
- ③名倉郷：須川より南二十六郷これを名倉郷と云。  
 庄野など
- ④余目郷：摺上川・松川の間二十余郷也。古八鎌田郷と唱へしよし。後世これを余目郷といい。案するに松川より北の方は、笹木野郷大杉の霊に余りし地なれば、其の杉の名跡に余るを以て余目と称せしなり。



(5)余目荘の村々



南沢又村は杉妻荘  
松川の変遷を物語る。



## 2 「サ」：神々に捧げる

### (1) 「サ」：山の神が里に下りてきて田の神となる

「サ」のつく言葉を『広辞苑』で調べてみると

さおり（サは稲の意。「さのぼり」に対する語か）田植を始める日の祝い。

さつき【五月】

さみだれ【五月雨】（サは五月、ミダレは水垂<sup>みだれ</sup>の意という）陰暦五月に降るなが雨。  
つゆ。梅雨。さつきあめ。

さおとめ【早少女、早乙女】（サは接頭語、稲の意）陰暦五月田植をする少女。

さなえ【早苗】（サは稲の意）苗代から田へ移し植える頃の稲の若苗。

さなぶり→さのぼり【早上】（「さなぶり」とも。「さ」は稲の意）田植がすんだ祝い。

### (2) 笹

庭で民俗芸能を舞う時に、舞う場の四隅に笹を立てて（笹を持った少女が立ち）結界をつくることが多くあります。

また、神輿の屋根に笹を立てて依り代とすることが多くあります。

## 3 吾妻山と延喜式信夫五座

### ①延喜式信夫五座

東屋沼神社（明神大社）・東屋国神社・白和瀬神社・鹿島神社・黒沼神社

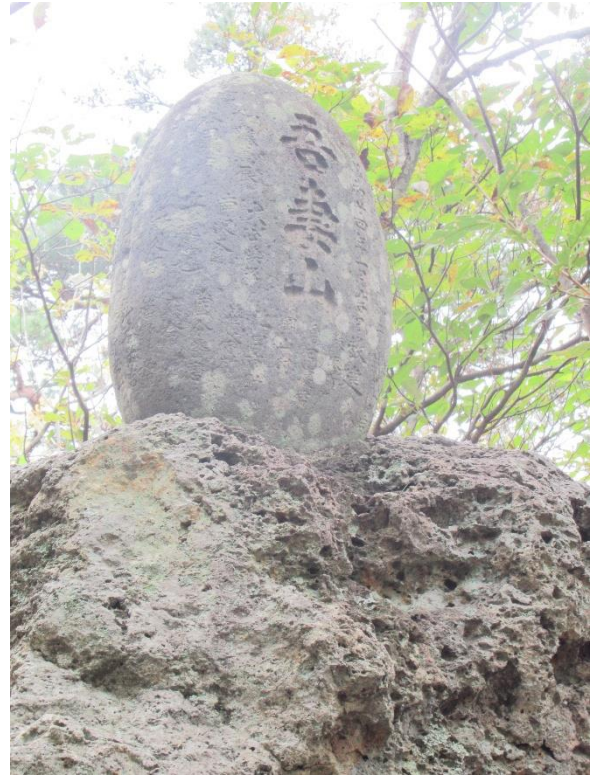
### ②東屋嶽（あづまやたけ）

『信達一統志』

「当村（李平村）の南にあり、信達両郡第一の山なり。東屋嶽神社・東屋国神社・東屋沼神社、三柱の神鎮座すなり。古事記に云う。其の国を号して阿豆麻と云う也。和名抄に阿豆万夜と作れり。註に四阿也。土人吾妻山ととなえり。南北の峰を北家形・南家形と云う。東屋嶽神社是也。その際に大なる沼あり。是を雷沼（かたちぬま）と云う。又五色沼とも云う。東屋沼神社是也。早魃の年、この沼の辺に到り雨を祈れば忽ちに冷氣起り急雨来ると云う也。」



※



磐座  
(いわくら)  
神々が降臨  
する場。  
※高御座  
たかみくら

②・東屋沼神社・平野（元大笹生）

『信達一統志』

「東屋沼神社は西山北家形南家形の間であり大なる沼なり。土人となえて雷沼と云う。後世此の地に移し奉り、摺上・松川の間二十余村の総社と崇め奉りしなり」

『信達一統志』町大笹生村の項

七戸的社

木落山の上にある。石宮なり。東屋治神社是也。日本武尊を祭奉るものなり。建武年中奥州の国守北畠源中納言顕家卿この神を尊信し給へ、七戸的大明神と称し奉るなり。後世、宮の傍らに大なる松七本あり。故に七松と称せしなり。今は入江野村に移し奉り、余目二十余郷の総社と崇め奉るなり。七戸的の中の戸を省きて七松となう。タチツテト活用故にマツと称せしなり。



「正一位七松大明神」社号額



「正一位東屋治神社」社号額

「神道裁許状」に見る東屋沼神社の社号（神社の名前）の変遷

和年号	西暦	神社名称
元和6年	1620年	七ツ松大明神
延宝4年	1676年	七的大明神
宝暦2年	1752年	七松大明神
宝暦9年	1759年	七〇大明神
安永8年	1779年	七松大明神
寛政元年	1789年	東屋治神社
文化4年	1807年	東屋治神社
天保9年	1838年	東屋治神社
明治3年	1870年	東屋沼神社

※宝暦9年の〇は虫喰い

③その他の延喜式内社

- ・東屋国神社・・中野
- ・白和瀬神社(東屋嶽神社)・・大笹生
- ・鹿島神社・・岡島字竹之内(岡本)・鳥谷野字宮畑・小田字鹿島山
- ・黒沼神社・・御山堂殿(信夫山)・松川町金沢・松川町浅川

④余目荘の各村の鎮守様は

i) 〰村祭り

①村の鎮守の神様の 今日 はめでたいお祭り日

どんどんひゃらら、どんひゃらら どんどんひゃらら、どんひゃらら  
朝から聞こえる 笛・太鼓

②年も豊年満作で 村は総出の大祭

どんどんひゃらら、どんひゃらら、どんどんひゃらら、どんひゃらら  
夜まで賑わう 宮の森

ii) 県社・郷社・村社

1) 上飯坂村：八幡神社、村社→郷社

祭神：誉田別命、神功皇后、玉依姫命(たまよりひめのみこと)

2) 下飯坂村：熊野神社、村社

祭神：奇御気奴命(くしみけぬのみこと)、  
速玉男之命(はやたまのおのみこと)、  
伊邪那美命(いざなみのみこと)

3) 宮代村：日枝神社、郷社

祭神：大山咋命(おおやまくいのみこと)、  
大己貴命(おおなむちのみこと)

4) 瀬上村：青柳神社、村社

祭神：大山祇命(おおやまつみのみこと)

5) 鎌田村：石森神社、村社

祭神：保食神(うけもちのかみ)

6) 丸子村：大地主神社、村社

祭神：大地主命(おおじぬしのみこと)

7) 本内村：八幡神社、村社

祭神：誉田別命(ほんだわけのみこと)

8) 北矢野目村：水雲神社、村社

祭神：天水分神(あめのみくまりのかみ)  
国水分神(くにのみくまりのかみ)

9) 南矢野目村：熊野神社、村社

祭神：誉田別命

- 10) 北沢又村：嶽駒神社、村社  
祭神：保食神（うけもちのかみ）
- 11) 中野村：東屋国神社、村社  
祭神：日本武尊（やまとたけるのみこと）
- 12) 入江野村：東屋沼神社、村社  
祭神：大己貴命（おおなむちのみこと）  
少彦名命（すくなひこなのみこと）  
素戔鳴尊（すさのおのみこと）  
日本武尊（やまとたけるのみこと）
- 13) 沖高村（沖中野村・高梨村）：貴船神社（高梨村）、村社  
祭神：閻魔神（たかおかみのかみ）  
大荒神社（沖中野村）、村社  
祭神：火産靈神（ほむすびのかみ）  
江戸時代は「三宝荒神」
- 14) 平塚村（平田村・飯塚村）：八龍神社（飯塚村）、村社  
祭神：高龍神（たかおかみのかみ）  
江戸時代は「八郎権現」  
愛宕神社（平田村）、村社  
祭神：加具土神（かぐつちのかみ）
- 15) 笹谷村（下大笹生村・大谷地村）：熊野神社（下大笹生村）、村社  
祭神：伊邪那美命（いざなみのみこと）  
大荒神社（大谷地村）、村社  
祭神：素戔男命（すさのおのみこと）  
江戸時代は「竈神社」
- 16) 大笹生村（上大笹生村・町大笹生村）：白和瀬神社（上大笹生村）、村社→県社  
祭神：日本武尊
- 17) 井佐野村（佐場野村・井野目村）：愛宕神社（井野目村）、村社  
祭神：軻遇槌命（かぐつちのみこと）  
貴船神社（佐場野村）、村社  
祭神：高龍神（たかおかみのかみ）
- ⑤なぜ、信夫五座は吾妻地区になく、余目荘の大笹生・入江野・中野にあるのか？

※これは何故なのでしょう？

信夫五座のうち、東屋沼神社・東屋国神社・白和瀬神社（東屋嶽神社）の祭神が  
日本武尊<sup>やまとたけるのみこと</sup>であることと関係があるのかもしれませんが。

※平安時代初めに征夷大將軍坂上田村麻呂が東征。

坂上田村麻呂

#### 4 神仏分離で何が変ったか

(1) 神仏分離令：慶応4年3月13日令以来たびたび出される

①慶応4年(1868)3月28日令

「権現・牛頭天王その他の仏語を神号とする神社は由緒を提出せよ。仏像を神体とする神社は改めるように。仏像・鰐口・梵鐘・仏具などは取り除くように」

②同年閏4月4日令

「別当・社僧は還俗して神主・社人などに転じ、神道を以て勤仕せよ。もし差支えがあり、または仏教を信仰していて還俗を承知できない者は、神への勤めをやめて立ち退くように。」

③京都祇園の八坂神社は明治維新以前は祇園感神院（牛頭天王＝素戔鳴尊<sup>すさのおのみこと</sup>を祀り、蘇民将来の子孫を守る厄災除去の疫神として信仰されていた）は神仏分離で八坂神社に。  
→八坂にあった祇園社は祇園の八坂神社に

『広辞苑』

祇園精舎：釈尊及びその弟子の為に建てた僧房、その場所が祇樹給孤独園<sup>ぎじゆぎふこどくおん</sup>

牛頭天王：もとインドの祇園精舎の守護神。除疫神として京都祇園社などに祭る。

蘇民将来：仏教で疫病除けの神の名。備後風土記に素戔鳴尊と習合し、茅輪をかけて疫病を免れしめた説話を伝えている。

④信夫山の羽黒山大権現は羽黒神社となって黒沼神社（黒沼大明神）の摂社に

⑤その結果信達地方では、

宮代や鳥渡の山王社→日吉神社・日枝神社

長倉の天王社→八雲神社

#### 5. 札所巡り

(1) 十二薬師・二十四地藏・三十三観音・四十八阿弥陀

(2) 十二薬師

薬師如来の十二の請願から「12」の数字にこだわり、12か所の薬師を選定

「光明普照」「随意成弁」「施無尽物」「安立大乘」「具戒清浄」「諸根具足」

「除病安楽」「転女得仏」「安立正見」「苦惱解脱」「飽食安楽」「美衣満足」

信達十二薬師				
1	峯之薬師如来		7	内馬場勝福寺薬師如来
2	南倉郷談議所護堂薬師如来		8	苗郷治辺薬師如来
3	大笹生安養寺薬師如来		9	保原郷石仏薬師如来
4	佐波野薬師如来		10	医王山大福寺薬師如来
5	湯野村菩提寺薬師如来		11	新山長福寺薬師如来
6	西成田誓在寺薬師如来		12	大石零山薬師如来

### (3) 二十四地蔵

地蔵霊場は24か所です。この数字のいわれはよくわかりませんが、地蔵菩薩の縁日が毎月24日であり、旧暦7月24日が地蔵盆であることから24という数字になったようです。地蔵盆は一般には寺院に祀られている地蔵菩薩を対象とした祭ではなく、道祖神信仰と結びついた路傍あるいは辻（街角）の地蔵が対象となっています。そのため、神仏分離以降は、寺院に守られなかったので、廃仏毀釈運動の中で破壊されてしまったお堂のお地蔵様があったようです。

信達二十四地蔵				
1	大安寺	桑折町	13 金秀寺	長岡村
2	上野常西寺（現、大聖寺）	伊達崎村	14 福源寺	長岡村
3	地蔵堂	半田村北半田町入口左	15 泉性院	余目村宮代
4	地蔵堂	小坂村泉田泉秀寺道右	16 地蔵堂	小山荒井
5	地蔵堂	小坂村入口川手前	17 鼻取地蔵堂	腰浜村五老内
6	大千寺	藤田町	18 大円寺	中町信夫山
7	十王堂	梁川町向町	19 宝林寺	柳町
8	称名寺	梁川町	20 円光寺	野田村八島田
9	満福寺	栗野村	21 地蔵堂	野田村笹木野小針
10	地蔵堂	大田村金原田泉沢	22 久盛院	清水村沢又
11	浄運寺	保原町	23 天王寺	飯坂町
12	光台寺	伏黒村	24 十王堂	飯坂町

### (4) 三十三観音

信達三十三観世音菩薩札所				
1	臨済宗	大蔵寺	小倉寺	千手観音
2	曹洞宗	安洞院	山口	文知摺観音
3	天台宗	薬王寺	御山	聖観音
4	曹洞宗	円通寺	大森	如意輪観音
5	曹洞宗	円通寺	大森	聖観音
6	曹洞宗	慈徳寺	佐原	聖観音
7	曹洞宗	東源寺	上名倉	聖観音
8	曹洞宗	清水寺	町庭坂	千手観音
9	真言宗	大福寺	大笹生	聖観音
10	曹洞宗	安楽寺	大笹生	如意輪観音
11	臨済宗	天王寺	飯坂町	聖観音
12	浄土宗	元満願寺	飯坂町	聖観音
13	曹洞宗	龍源寺	瀬上町	聖観音
14	曹洞宗	宝寿寺	伊達町	聖観音
15	曹洞宗	明智寺	飯坂町東湯野	聖観音
16	曹洞宗	松原寺	桑折町松原	十一面観音

17	曹洞宗	松原寺	桑折町松原	如意輪観音
18	曹洞宗	慈雲寺	桑折町成田	聖観音
19	浄土宗	観音寺	桑折町万正寺	聖観音
20	曹洞宗	松蔵寺	国見町小坂	聖観音
21	曹洞宗	福源寺	国見町鳥取	馬頭観音
22	真言宗	大聖寺	桑折町上郡	聖観音
23	曹洞宗	光台寺	伊達町伏黒	馬頭観音
24	真言宗	長谷寺	保原町五丁目	聖観音
25	真言宗	長谷寺	保原町五丁目	聖観音
26	真言宗	高福寺	保原町富沢	聖観音
27	真言宗	明福院	保原町所沢	聖観音
28	曹洞宗	三乗院	霊山町掛田	聖観音
29	天台宗	霊山寺	霊山町大石	聖観音
30	浄土宗	称名寺	梁川町	聖観音
31	真言宗	龍宝寺	梁川町八幡	千手観音
32	曹洞宗	龍沢寺	梁川町白根	聖観音
33	真言宗	龍宝寺	梁川町八幡	聖観音

## (5)四十八阿弥陀

薬師如来に十二願、普賢菩薩に十願があるように、阿弥陀如来には四十八願があります。阿弥陀如来にすがって、極楽浄土に往生するために指定された寺院を廻りますが、これを「四十八願阿弥陀巡礼」といいます。48の寺院・お堂を廻ります。この48という数の根拠となるのが阿弥陀如来の四十八願なのです。

「弥陀四十八所巡礼道之記」という史料が遺されています。安永3年(1774)に書かれた順路に従って万延元年(1860)に幸心房が廻った順路を記録したものです。

信達四十八阿弥陀			
1	桑折北町無能寺阿弥陀仏	17	二子塚篠坂阿弥陀
2	桑折本町大安寺阿弥陀	18	荒井村吠内阿弥陀堂
3	桑折西町香林寺阿弥陀	19	荒井村金剛内阿弥陀堂
4	万正寺村観音寺阿弥陀	20	荒井村真光寺阿弥陀
5	平沢村松光寺阿弥陀	21	上鳥渡村観音寺阿弥陀
6	上飯坂村十王堂阿弥陀道上町東方	22	成田村薬師堂阿弥陀
7	上飯坂村湯町万観寺阿弥陀	23	大森村城山庵阿弥陀
8	上飯坂村八幡八浦寺阿弥陀	24	荒田目村称念寺阿弥陀
9	上飯坂村花水香徳寺阿弥陀	25	清水町塞耳庵阿弥陀
10	上飯坂村小川の菴阿弥陀	26	福島柳町法林寺阿弥陀
11	上大笹生座頭町庵阿弥陀町南方	27	福島中町誓願寺阿弥陀
12	上大笹生村水口菴阿弥陀	28	福島中町大円寺阿弥陀
13	上大笹生村原屋敷阿弥陀	29	福島上町到岸寺阿弥陀
14	庭坂観音堂阿弥陀	30	御山村大仏之上石蔵阿弥陀
15	庭坂高湯薬師堂阿弥陀	31	御山村観音堂阿弥陀
16	庭坂庵之阿弥陀	32	泉村堀之内阿弥陀
33	南沢又村盛久院阿弥陀	34	南沢又村まげ堀庵阿弥陀
35	八島田村本庄町庵阿弥陀	36	下野寺村さる内阿弥陀堂
37	上野寺村大林寺阿弥陀	38	笹木野小針地藏堂阿弥陀
39	笹木野千福寺阿弥陀	40	大谷地村原町庵阿弥陀西側
41	下大笹生新町摂取庵蓮光寺隣	42	下大笹生宝蔵阿弥陀蓮日会寺
43	下大笹生大師堂阿弥陀蓮光寺	44	下大笹生伏之内庵阿弥陀
45	下大笹生北金や源水庵阿弥陀	46	下大笹生前田熊野堂阿弥陀
47	北沢又村大和田庵阿弥陀忍光庵	48	北沢又村川寒金福寺阿弥陀

## 6. 仏教・神道以外の神々

### (1)庚申信仰

青面金剛

### (2)月待ち講と主尊

13夜 虚空蔵菩薩

15夜 阿弥陀如来

19夜、22夜 如意輪観音

23夜 勢至菩薩

### (3)竈神

(4)火伏神 秋葉神：三尺坊  
愛宕大権現

